

---

# 合格祈願

神村律子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

合格祈願

### 【コード】

N9134H

### 【作者名】

神村律子

### 【あらすじ】

私はどうしても志望校に合格しなくてはなる神社に行った。

私は高校三年。名前は御前崎裕美。

大好きな人が受ける大学に合格したくて、ある神社に来ている。

先生には、

「お前、世の中なめてるのか？」

と言われた。

友達にも、

「無理無理。やめときなよ」

と笑われた。

私は実は非常に勉強が嫌い。

それでも好きな人と同じ大学に行きたい。

そして探したのだ。

絶対に志望校に合格させてくれる神社を。

その神社は応募者があまりに多くて、申し込みの段階ではじかれ

る事がほとんどらしい。

でも私は、その応募で選出され、神社に行ける事になったのだ。

神社の宮司さんと顔合わせをした。

「必ず合格させてくれるのですよね？」

私は身を乗り出して尋ねた。宮司さんはかすかに笑みを浮かべて、

「もちろんです。当方で祈願した方は、必ず合格致します」

「そうですか」

「今まで、数千人の方が合格されています」

「はい」

私はホツとした。

宮司さんは真顔になり、

「それで、祈願料のご用意はできましたか？」

「はい。1億円、確かにお持ちしました」

「そうですか」

宮司さんは満面に笑みを浮かべ、頷いた。

祈願料は高いが、これで願いが確実に叶うのだから、安いものだ。

「では、早速志望校をお教え下さい」

「はい。こちらに」

私は神社の入口で渡された高級和紙に志望校を書き、宮司さんに差し出した。

宮司さんの眉間に皺が寄る。

私と和紙を交互に見る。

「この大学に合格したいと？」

「はい。何とかお願いします。好きな人が受験するんです。一緒に合格したいんです」

「須田塾女子大ですか」

「はい」

「無理です」

「え？ 無理なんですか？ 祈願料が足りないのでしょうか？」

「いえ、いくら祈願料を出されても無理です」

宮司さんは何となくイライラしているように見えた。

私は理由<sup>わけ</sup>がわからず、

「どうしてダメなのですか？」

「わからんのですか？ 志望校は女子大！ あなたはお・と・こ！」

私は宮司さんのその言葉に酷く傷ついた。そして叫んだ。

「私は女です！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9134h/>

---

合格祈願

2010年12月30日14時16分発行